薬事委員会記録

日 時：平成 24 年 3 月 1 日（木） 16 時 00 分

場 所：医学部 1 階 小会議室

出席者：伊藤、鶴見、大野、諏訪、村瀬、豊木、青木(隆)、大江、川瀬、青木(光)、加納、安田(満)、天野、木村(豪)、松本、畠山、森田、木村(暁)、吉田、村上、紀ノ定、中口、倉坪、松浦、北市、安田(浩)

代理出席者：舟口〔二内〕、名和〔二外〕、杉山〔光診〕

委任状提出：富松、堀川、竹中

欠席者：林、齋藤、大塚、荒木、岡安

新規委員の紹介

平成 24 年 4 月から稼働する NICU の薬事委員の紹介があった。

記録の承認

平成 23 年 12 月 1 日開催の薬事委員会の記録を承認した。

協議事項

1. 医薬品の採用について

オンブレス吸入用カプセル 150 μ g 以下 14 品目の採用を承認した。

2. 医薬品の継続試用について

リパクレオンカプセル 150mg 以下 15 品目の継続試用を承認した。

3. 医薬品の新規試用について

ジスロマック点滴静注用 500mg 以下 15 品目について、申請診療科および薬剤部より説明された後、新規試用の承認可否について投票を実施した。

エスポー注射液 750 国際単位について、委員長より EPO 製剤を一銘柄に統一するという観点から、エポジン注アンプル 750 への変更の提案があった。それに対し泌尿器科より、現在 EPO 製剤を頻用している診療科の意見を聞くべきとの意見が挙げられたため、再度検討することとした。

4. 医薬品の院内採用中止について

ロングス錠 10mg 以下 11 品目の採用中止を承認した。

5. 医薬品の院外採用について

ラックビー錠以下 4 品目の院外採用を承認した。

6. 医薬品の製剤変更について

リピディルカプセル以下 5 品目の製剤変更を承認した。

7. 医薬品の包装変更について

モーラスパップ 30mg 以下 2 品目の包装変更を承認した。

8. 医薬品の名称変更について

ハルスローOD 錠 0.2mg の名称変更を承認した。

9. 医薬品の販売中止について

ケテック錠 300mg 以下 20 品目の販売中止が報告された。

報告事項

1. 緊急購入医薬品の登録について

テラビック錠 250mg 以下 15 品目の緊急購入の登録が報告された。

その他の事項

1. 診療報酬改定における処方せん様式の変更について

委員長より、診療報酬改定に伴い処方せん様式が一部変更になり、これまでの「後発医薬品への変更がすべて不可の場合の署名」欄は廃止され、個々の医薬品について変更可否を明示する様式となることが説明された。これに対し診療科より、オーダーリングシステム上で一括変更不可の操作については残してほしいとの意見が挙げられたが、まだ案の段階であり現在対応を検討していると回答された。

2. リレンザの使用促進について

薬剤部より、現在リレンザの在庫が 200 ケースほどあり、優先的に使用してもらいたいとの依頼があった。生体支援センターより、インフルエンザ B 型に対しタミフルはあまり有効ではなく、またイナビルは一部吸入操作が難解である場合があるとの追加意見が挙げられた。

医薬品安全使用に関する検討会

1. NICU における注射用カリウム製剤の取扱いについて

現在、アンプル型の注射用カリウム製剤については、急速静注による医療事故のリスクを考慮して、使用できる部署を ACC、ICU 等に限定している。このたび NICU が稼働するにあたり、新生児では投与量が少なくプレフィルドシリンジ製剤は適さないことから、アンプル製剤を使用したいとの意見が挙がり、これを承認した。

2. 医薬品安全使用に関する業務手順書に基づいた業務実施状況について

調査は平成 24 年 1 月から 2 月にかけて行われ、医薬品安全使用に関する業務手順書に基づいて業務実施状況を評価したところ、3 つの部署で C 評価の項目があったとの報告がされた。そのうち 2 つの部署では対応を進めており、1 つの部署については現在詳細を確認中であると説明された。

生体支援センターからの連絡事項

1. 薬剤師による採血、検体および処方オーダーについて

薬剤部より、TDM 測定時に異常値が出ている場合、採血オーダーを医師に代わり薬剤師が行うことについての提案があった。生体支援センターより、同様に検体オーダー、処方変更についての薬剤師の権限について説明された。本件については既に医療安全委員会では承認され、近く情報セキュリティ委員会でも承認を得る予定であると説明された。また、高次救命治療センターより、当該病棟担当薬剤師に対しても権限を拡大するよう依頼があった。

2. 0.5%ヘキサックアルコール液の運用について

生体支援センターより、平成 24 年 2 月よりヘキサック AL 液 1%の運用が開始されたが、0.5%製剤の現在の使用用途であればエタノール液で十分対応できるため、今後 0.5%製剤の運用は中止していくと説明された。薬剤部より追加意見として、0.5%製剤と異なり 1%製剤は薬価未収載のため、取扱いは物流請求となることが説明された。

3. 抗菌薬適正使用の取り組みについて

生体支援センターより抗菌薬適正使用の取り組みに関して、依頼に対し約 95%が修正され、診療科からのコンサルテーションも増えていると報告された。また、来年度入局される医師、研修医に対しても本取り組みを周知して頂くよう依頼があった。

次回薬事委員会の開催日時は、平成 24 年 6 月 7 日(木)とした。